

和歌山モデルと 天文学コミュニティへのアピール

尾久土正己・富田晃彦・矢治健太郎
和歌山大学

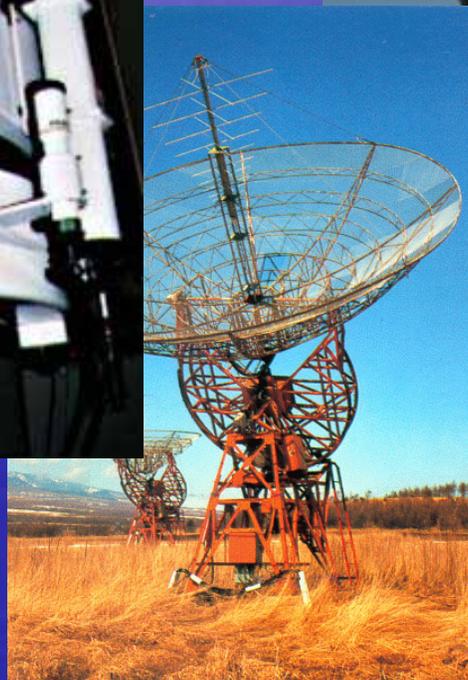
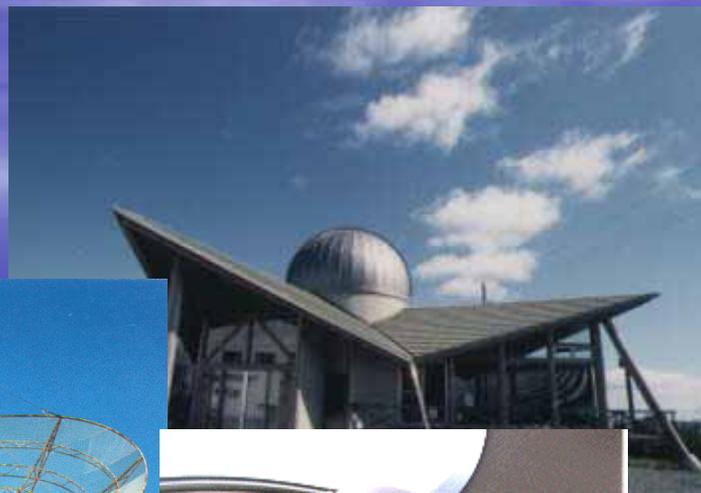
和歌山に「わかてん」あり(復習)

- 去年も紹介しましたが・・・
 - 和歌山大学
 - 教育学部 (富田) 60cm望遠鏡
 - 教育学部附属教育総合実践センター(客員:矢冶) new!
 - システム工学部 (曾我) リモート望遠鏡
 - 学生自主創造科学センター (尾久土) 自主演習(工作室)
 - みさと天文台(矢動丸、豊増、小澤) 105cm望遠鏡
 - かわべ天文公園(上玉利、古屋) 100cm望遠鏡 + プラネタリウム
 - 生石山高原天文台(下代) 50cm望遠鏡
 - 和歌山子ども科学館(津村) プラネタリウム
 - 毎月1回の勉強会(今年度中に80回を越す)
- さらに、佐藤文隆@甲南大(みさと天文台名誉台長)が今年度から和歌山大の経営協議員に就任
new

みさと1m



生石0.5m



みさと8m電波

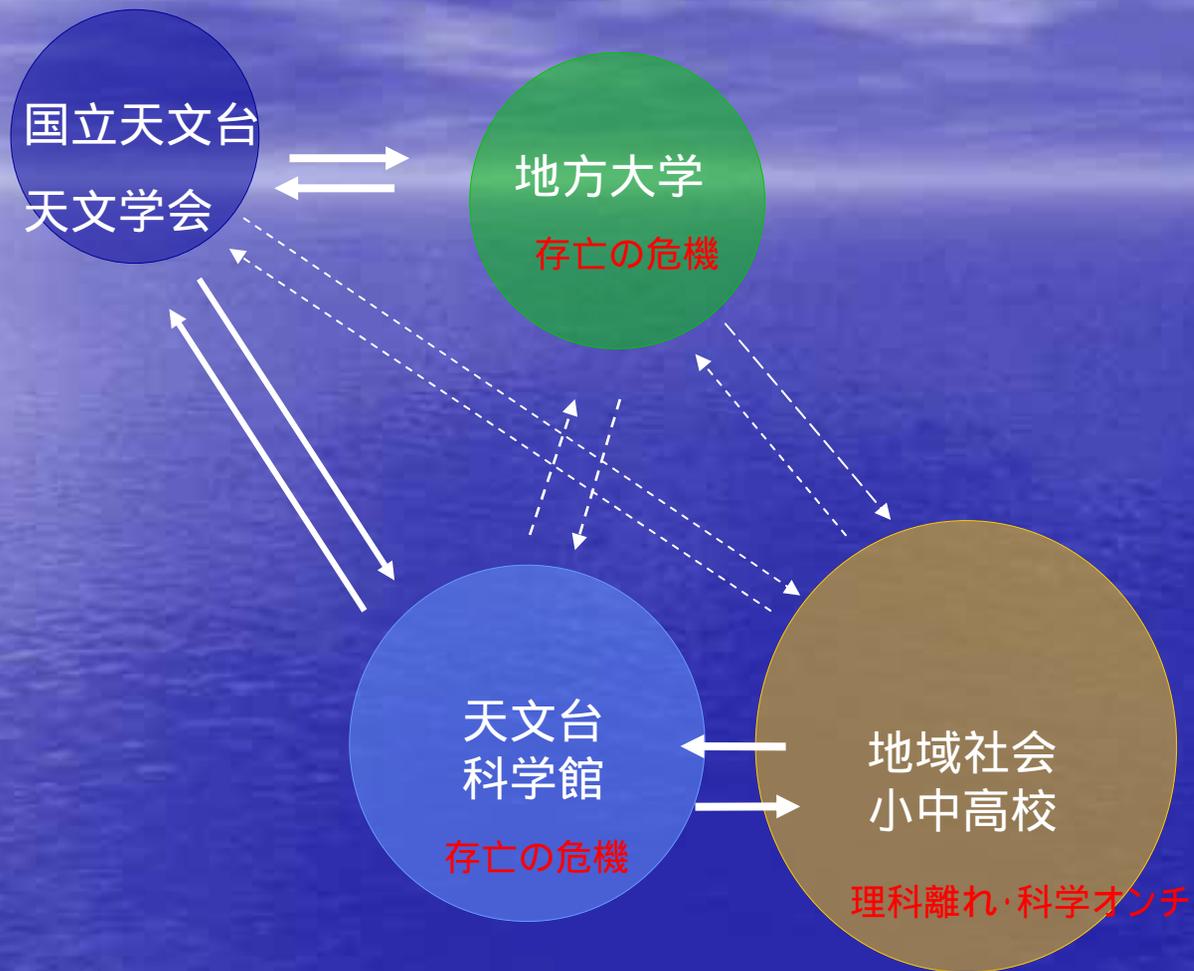


かわべ1m



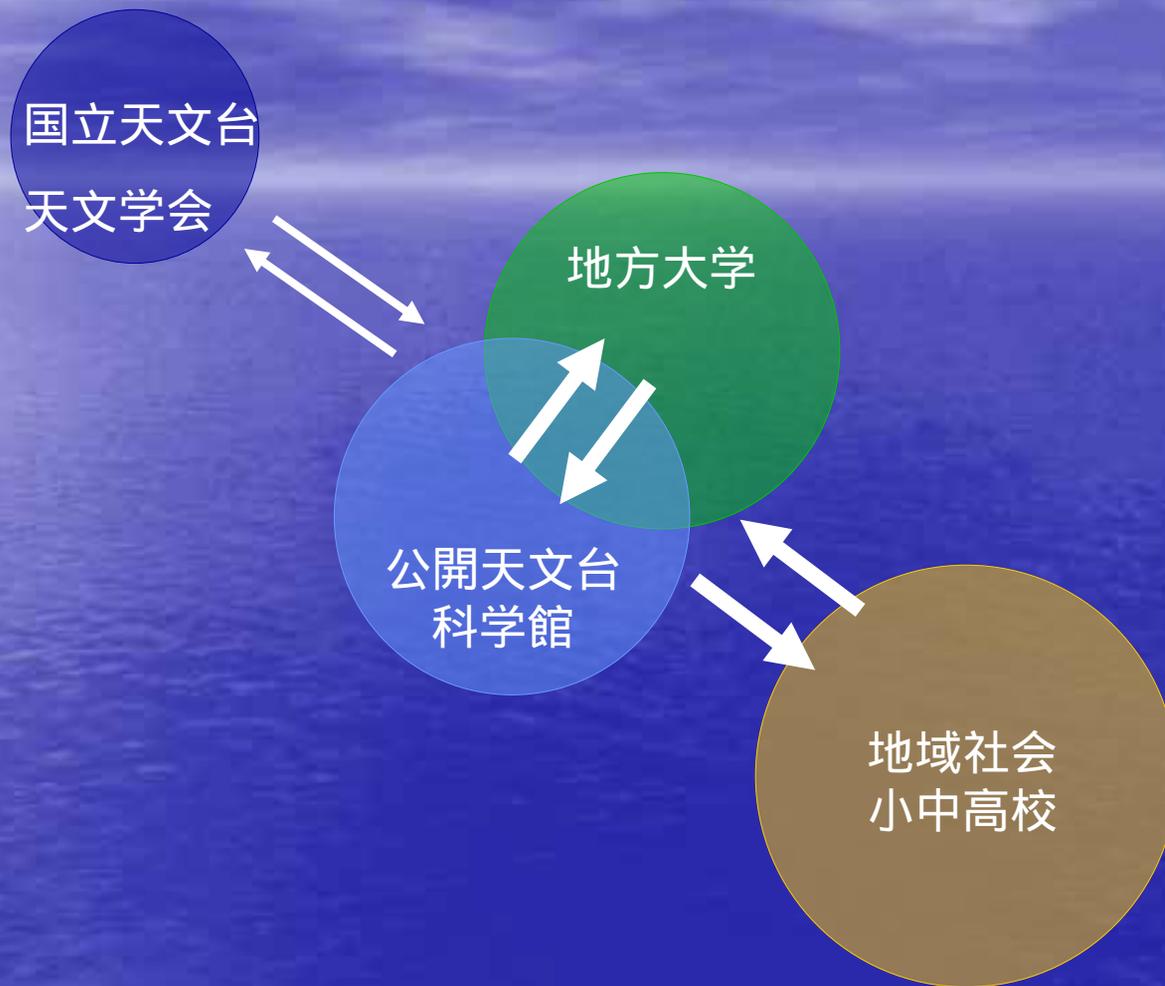
和歌山大0.6m

(復習)



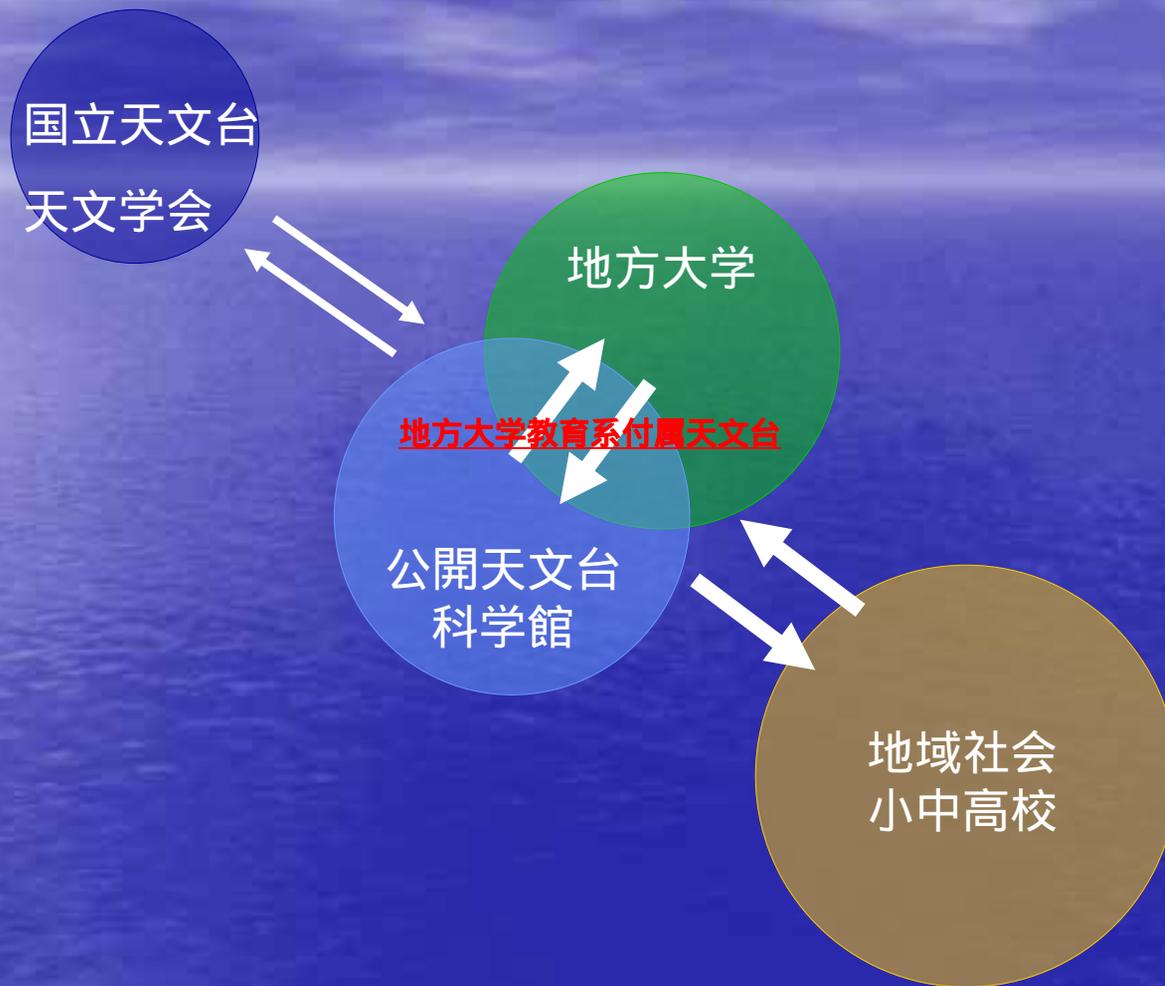
現状の天文コミュニティの関係

(復習)



地域連携型天文ネットワーク(和歌山モデル)

(復習)



さらに進めて、地方大学教育系附属天文台をハブにできると良いのでは！

大学付属天文台設置構想

- 2003年春から県・県教委・町・大学のトップを巻き込んで論をスタートした(去年のシンポジウムで報告)

今回、この先がどこまで話が進んだかをお話します

従来の大学天文台とは違う

- 将来の諸プロジェクトを推進するためには納税者への説得が大切
- 「わかりやすく説明すれば理解できるのに…」 科学コミュニケーターの必要性
- 天文台という看板は背負っているが、あらゆる分野(教育、ものづくり、地域、観光…)に貢献できる天文台を目指す

取り込めるところから手をつけよう

- みさと天文台の運営を共同運営に
 - 美里町(06年1月消滅 新町):施設(維持費)
 - 和歌山県教育委員会:研究員の雇用(人件費)
 - 和歌山大学:各種プロジェクト(教育・研究費)

2006年4月から新体制へ移行する
(県教育長・町長・学長の合意)
3つの看板を持つ天文台になる

現時点での学内での体制

- 「天文台活用プロジェクト」を学内で立ち上げ
 - 学長から学内の各種委員会へ報告、承認してもらい、学内での正式な活動にしてもらう(今秋にもスタート)
- すでに、各部局で立ち上がっているプロジェクト
 - 教育総合実践センター:天文教育プロジェクト
 - 学生自主創造科学センター(クリエ):天文教育プロジェクト
- 予算措置
 - 国立天文台大学特別支援経費(2003)
 - 地域貢献事業(2003-2004)
 - 特色ある大学教育支援プログラム(GP)(2003-2006)
 - 振興調整費(目標)
- 昨日、学生自主創造科学センター専門部会で
 - 「天文台活用プロジェクト」が重点テーマに決定

学内で動いている活動(1)

- 8mプロジェクト (対象学部:工学、教育)
 - 野辺山から払い下げでもらったアンテナがみさとで展示中
 - クリエを中心に、シス工学生、箕島高校生徒とスタート
 - 歴史の比較的浅い電波天文学をものづくりから取り組むことで、1つの科学史の追体験する。
- リモート望遠鏡プロジェクト (対象学部:工学、教育)
 - クリエの重点テーマでもある
 - みさとの望遠鏡を遠隔操作で教育利用
- 光計測プロジェクト(対象学部:工学部)
 - 鏡面の計測技術の開発

学内で動いている活動(2)

- はやぶさ支援プロジェクト (対象学部:教育)
 - JAXA/ISAS + 和歌山大 + みさとで、ITOKAWAの観測
 - 今回の実績次第では、次期探査機の候補天体の選定のための観測も支援予定
 - NAOJだけでなく、JAXAとの連携強化
- PAOFITSプロジェクト(対象学部:教育)
 - 教材データの取得(セファイドの光度曲線)
 - 分光システムの立ち上げ
 - カメラ評価システムの立ち上げ

学内で動いている活動(3)

- 天文教育プロジェクト(対象学部:教育)
 - モバイルプラネタリウム
 - 携帯カメラ
 - インターネット中継
- 「熊野・高野」世界遺産系(対象学部:教育、経済、観光?)
 - 「郷土の星の伝承者」展示会(2003/12)
 - 「高野山から宇宙へ - 曼荼羅と現代宇宙論の対話」(2004/02)
 - 天文台イベントのプロデュース(2004/09)
- 天文台での博物館実習(対象学部:教育)
 - コミュニケーター養成カリキュラムのモデル
 - 天文台研究員による卒論、修論指導へ発展

各サイトで動いている活動

- ここでは省略しますが・・・
 - 天文教育で多彩な活動をしています。

大学に取り込む / 連携強化することで

科学コミュニケーター養成の拠点へ

2006年3月末 天文学会で

- 年會を和歌山大学で開催します
- 和歌山モデルが、最初の成果を出し始めているはず
- 天文コミュニティーに対して「大学教育における新しい方向性」をアピールする場になるので、ぜひ、お越しください。
- 成果が出れば、他の施設も取り込んでいく？